

# 日本レジャー・レクリエーション学会

## 第25回記念大会 本部企画

### 大会テーマ：「新しい時代の創造的余暇」

#### シンポジウム

#### 「新しいレジャー・レクリエーション時代の生き方」

#### その趣旨

コーディネーター○芳賀健治（東京家政学院大学助教授）

全体構想としては、原田先生にグローバルな視野から今後の日本の余暇の見通し（特にレジャー産業の動向等）を話してもらい、松田先生には、「WorkよりLeisure優先の脱産業社会」という歴史的な枠組みおよび価値観の視点から、話題を提供していただきます。さらに、宮下先生には、コミュニティレクリエーションの現場および阪神大震災でのボランティアの経験からボランティアの話題とレクリエーションの関係について話題を提供して頂きます。

全体の視点は、今後の余暇のあり方は、従来のレジャー産業主体の領域から、生涯学習やボランティアなどの自己啓発型の余暇の過ごし方が余暇のトレンドをリードしていくのではないかという考え方に基づいています。また、高齢者の余暇の問題（ありあまる余暇、歓迎されざる余暇）や、学校5日制の定着などの情勢を考えると、これまでのレジャーの在り方・価値観では対応しきれない問題が続出してくると考えられます。また、障害者や高齢者に対する施策としてのレクリエーションの重要性も認識されつつあります。

これまでの日本では、産業優先、効率第一主義の価値観のもとで余暇は字義の通り「余った暇」という見なされ方でした。不況が来れば、レジャーへの出費が先ず第一に削られるという価値観です。

ところが、現在は、余暇は「余った暇」ではなく若い世代ではむしろ仕事よりも価値あるものとして考える人々が増えてきました。「モノからころへの価値観の転換」、「効率第一主義から人間性重視の価値観への転換」などが、余暇という視点で見ると様々な社会現象として現れてきています。このような視点でとらえてみると生涯学習やボランティアに関わる最近の情勢は、この価値観の転換を示す大きな時代の流れと捉えることができると思います。

日本の現在の状況は、余暇やレクリエーションに関わる価値観や社会システムが大きな転換期の渦中にあるという前提の元に、今後どう変わるの、先進国の事例はどうなのか等について、出席者との意見交換を取り入れながら、余暇の本質について迫ろうと企画しています。